



マダイの稚魚を放流する児童ら
＝三浦市南下浦町松輪の間口漁港

元気に大きくなつて

三浦の
剣崎小 児童らマダイ稚魚放流

地元の豊かな海を身近に感じてもらうと、三浦市立剣崎小学校（同市南下浦町松輪、石渡博幸校長）の児童らが12日、近くの間口漁港（江奈地区）で、マダイの稚魚千匹を放流した。子どもたちは「大きく育つて」と願いながら、大海原に旅立つ稚魚を見送った。

海の環境を守る大切さや水産資源の維持に関心を持ってもらうことを目的に、県栽培漁業協会が毎年実施している。稚魚は同協会が約5カ月かけて約13センチまで成長させた。約2年で約23センチになり、漁獲の対象になるといふ。

1、6年生の全校児童計121人が参加。稚魚が2匹ずつ入れられた小さなバケツを受け取り、学年ごとに放流した。「元気に育つて」「さようなら」などと声を掛け、海面に放たれた稚魚の行方を目で追った。

同協会の今井利為専務理

事は「現在の釣果水準を維持するには稚魚の放流は欠かせない。栽培漁業の役割を知ってもらえたらうれしい」と話した。

（石川 泰大）